

秩父三十四カ所観音巡礼報告書（第1回）

写真・文 後藤

期 日 2017.11.20(月)～22(水)

参加者 後藤、高岡、渡邊典、田内、土屋弥、加藤、合谷、鈴木新、鈴木綾、星、松永、栗原（一般）＝12名

1日目（11月20日）月・晴

コース 三島・イトーヨーカ堂6：00～東名～関越道～秩父市～秩父鉄道・和銅黒谷駅着9：50～発9：59～聖神社10：07～和銅神社10：28～一番・四萬部寺11：29～昼食～二番・真福寺13：44～三番・常泉寺14：47～四番・金昌寺15：37～バス～民宿「すぎの子」16：45（泊）

6時長泉発。関越道経由で秩父鉄道・和銅黒谷駅着。駅ホームには、日本通貨発祥の地の「和同開珎」（わどうかいちん）の大きなモニュメントがあった。丁度、貨物が入って来た。「無蓋（むがい）車」と呼ばれるもので、屋根がない貨物。秩父産出のセメント原料の石灰岩を運んでいた。



和同開珎モニュメント



無蓋車



一番・四萬部寺



聖神社



札所一番・四萬部寺（発心寺）

正面にその石灰岩産地の武甲山（ぶこうさん）が聳えていた。ただ、山の三分の二ほどに大きな掘削道があり、痛々しい痕跡が残されていた。

聖神社を經由して、和銅神社着。昔の銅の露天掘り跡があった。裏道から、一番札所（秩父の場合、札所一番と最初に札所が入る）の四萬部寺（しまぶじ）着。

寺向かいに「旅籠・一番」という、築100年のイイ雰囲気のある宿があった。訪ねて少し話をした。皆は寺でご朱印帳など、グッズを購入。ここで「発心」の記念写真撮影。昼食はバス中で撮った。



旅籠・一番



二番・真福寺



三番・常泉寺



四番・金昌寺のワラジ



片手に德利、頭に盃

午後の開始。二番・真福寺は山の上。昼食後でキツかった。途中、自転車巡礼の若い女子に抜かれた。自転車は電動だった。駅で借りることが出来る。東京から日帰りといった。境内に冬桜。無住職ながら、雰囲気がある寺だった。

坂を下って三番・常泉寺。本堂の竜の彫り物が立派。四番は金昌寺。石仏が素晴らしい。山門に大きなワラジ。そういえば、この地のB級グルメは、「ワラジかつ丼」だった。翌日、ドライバーが食べたが、量が多く食べきれなかったそうだ。

本堂に乳飲み子を抱えた慈母観音があった。なかなか見ごたえのある観音様だった。マリア観音とも呼ばれているようだ。

他にも大きな観音様があった。3mくらいのもので、建屋の丸い窓越しに丁度、お顔が見られる設計だった。ほか、お酒の好きの石仏は、片手に德利、頭に盃を被っていた。

一日目は、ここで終了。秩父中心街は安い宿がなかった。バスで15分程移動して宿に到着。元庄屋を改築した民宿「すぎの子」。

建屋は茅葺で雰囲気はなかなか良い。ただ、建屋が古いだけに、音・寒気（障子の外は廊下で半分、雨戸がない）夏は学生さんが中心の宿とのこと。犬小屋も茅葺だった。囲炉裏もあった。宿は、オババと息子、その嫁の三人で賄っていた。売りは何ととってもオババ。



マリア観音



民宿・すぎの子



茅葺の犬小屋（笑い）

年齢は77歳。能弁で野菜の調理・加工の知識は最上級だった。従って、喋り出したら止まらなく、延々とご教授いただいた。

女性軍は大いに喜んだ。ただ、余りにレシピが多く、覚えきれない。後日、書き物を送って下さいと、名刺を置いて来た。

梅干を350g・500円で売っていた。購入したが、サイコーの味でした。今時、このような方は、貴重な方ですね。



オババ



大演説会??!!



大笑い



民宿・すぎの子



2日目（11月21日）火・快晴、朝は冷えた

タイム 起床6:00-朝食7:30~バス発8:20~四番・金昌寺8:40-五番・御歌堂9:01-七番・法長寺9:48-六番・ト雲寺（ぼくうんじ）10:16-八番・

西善寺 10 : 52 — 九番・明智寺 11 : 35 — 昼食 — 十番・大慈寺 13 : 50 — 十一番・
常楽寺 14 : 36 — 十二番・野坂寺 15 : 09 ~ バス ~ 民宿「すぎの子」 16 : 30 (泊)



武甲山

民宿「すぎの子」の庭には、犬が一匹いた。見ればその犬小屋も立派な「茅葺」だった。恐らく日本一の犬小屋だろう。何と幸せな、ワンちゃんだろうか。顔を見ると、眼の上に黒い模様があって、何故か笑っているように見える。(笑い)

朝はモーレツに冷えた。男性が泊まった一階の部屋は、廊下があり、雨戸は半分しかない。従って部屋の障子は外の外気がモロに当たる。カーテンはあったが、隙間風がスースーだった。二階の女子部屋も寒かったという。

庭の宿の車のフロントガラスは氷がガジガジだった。この地は標高約300m。緯度も三島・長泉より高い。降雪は少ないが内陸の冷え込みは、相当なモノ。しかも、東が山の為、朝日は遅かった。バスで昨日最終の四番・金昌寺に戻る。綺麗で立派なトイレを使い出発。五番・語歌堂(ごかどう)は小さく無住職。六番・ト雲寺は、少し山の上。周辺は紅葉が凄い。寺は大きくはない。サポーターがお経本を貰った。

七番・法長寺に向かう。バス巡礼の方が来た。白衣を着けていなかった。四国はバス巡礼でも、身なりはシッカリしている。ここは普段着。

先達のお経は、物凄く速かった。目の前、横瀬川の向こうに、大きな武甲山(1304m)が迫る。武甲山は、いわずと知れた、石灰岩採掘の山。山の中央に大きな碎石道があり、山が分断されてい



八番・西善寺の「コミネカエデ」

た。早朝からガラガラ音が聞こえる。しかも、温泉の湯気みたいな、土埃が各所で上がっていた。これでは周りは堪らない。

確かに石灰岩が無ければセメントは作れず、ビル・橋梁などは出来ない。しかし、自然破壊は著しい。秩父市に落ちる税金は大きいだろう。人間は絶対的に自然を利用して生きている。どの程度に塩梅をつけるか、要はバランスの問題である。

七番・法長寺から八番・西善寺に向かう。寺は武甲山の一角みたいな感じで、坂上にあった。寺入場は1000円の有料だった。ただし、ご朱印(3000円)を押す方は無料。

四国・伊豆とか巡礼を各地で行っているが、入場有料(拝観料)は初めて。理由は不明。ただ、この寺には、樹齢600年の「コミネカエデ」という、見事なカエデがある。

その維持費として入場料を取っているのかも。確かに、巡礼でなくカエデ見学のみで来る人も多い。それにしても、今まで見たことがない、見事なカエデだった。

坂を下り西武鉄道沿いに進む。丁度、電車が通過して行った。下から巡礼着をつけていないカエデ見学風な方が、何人か上ってきた。下り切って、九番・明智寺。小さい寺だった。昼食時間になったのでバス移動。街のファミレスで頂いた。

バスドライバーが、例の「ワラジかつ丼」を食べたと言った。大きくて食べるに大変だったそうだ。昼食を終え、午後の巡礼。

明智寺から更に下り、十番・大慈寺。大きな寺ではなかった。次の十一番・常楽寺には、山道と下



西武鉄道



九番・明智寺



十番・大慈寺



山道



十一番・常楽寺



十二番・野坂寺

道があった。鈴木綾・加藤は下道で他は山道。山道は自然道で良かった。途中、山中に大きな神社があった。常楽寺も大きくはなかった。裏通りを通過し、十二番・野坂寺着。今巡礼で一番立派な寺だった。ただ、裏道から来たので、長い参道を上れず残念。山門に木造の観



十二番・野坂寺



お勤め

音様が片膝でほほ笑んでいた。一般的に仏さまは性別がないという。

しかし、この観音様は、どうみても女性に見える。ただ、正面のお顔は微笑む優しいお顔だが、後部は恐ろしい鬼の邪面だった。

後ろにもう一体の木造の観音様。こちらも乳房もあり、優しい笑みを浮かべていた。皆さんが撫でるようだ、全体的にテラテラ光っている。私も撫ぜた。家に欲しい仏さまだ。



十二番・野坂寺



民宿「すぎの子」

綺麗で大きな境内。この寺は本堂でお勤めをさせてくれた。木魚が十数個並んでいた。ご本尊も黒い木造の観音様。これも素晴らしかった。

野坂寺でお勤めを終えて、今日は終了。バスで「すぎの子」に戻る。連泊だった。この日も、オババの「大演説会」。体の疲れもほどほど。酒も美味しかった。バタンキューで夜は更けた。

3日目（11月22日）水・晴

タイム 起床6：00ー朝食7：00～バス～十二番・野坂寺発7：38ー十三番・慈眼寺8：29ー十四番・今宮坊9：10ー十五番・少林寺9：20ー十六番・西光寺9：34ー十七番・定林寺10：13ー十八番・神門寺（ごうどじ）10：47ーバスー道の駅「大滝温泉」（入浴・温泉）ー帰静



秩父秩父駅「祭の湯」



十三番・慈眼寺



十三番・慈眼寺

最終日、バスで十二番・野坂寺に行き出発。今朝も天気は良く、気温は下がった。
寺からR140に出て通りを北上。西武秩父駅前を通過。駅には、「祭の湯」という温泉がある。
程なく、十三番・慈眼寺着。最終日は、寺が近い距離で存在している。
十八番・神門寺（ごうどじ）まで、半日歩いて帰静する日程。予定通り午前中で終了し帰静。途中、
土屋さん推薦の道の駅「大滝の湯」で温泉と昼食を楽しんだ。
温泉は、荒川を見下ろし中々、良かった。第一回・秩父巡礼は、無事終わった。

(了)



十四番・今宮坊



十五番・少林寺



十六番・西光寺



十七番・定林寺



十八番・神門寺